

奈良市食と農の未来づくり推進計画 概要

第一章 計画の策定にあたって

計画策定の趣旨

- 本市ではこれまで、食育と地産地消を個別の計画により推進。
- しかし本来、食と農は密接に関わり合うものであり、「6次産業化・地産地消費」ならびに国の「第4次食育基本計画」でも示されているとおり、社会において一体的な取り組みが求められている。
- 以上から、**食育と地産地消の計画を統合し「奈良市食と農の未来づくり推進計画」**を策定する。

計画の基本方針

安心・おいしい奈良の食から、
人と産地の未来づくり

- 〈食〉ライフスタイルの多様化により、健全な食生活が実践されず、生活習慣病のリスクが高まっている。
- 〈農〉他地域産の農産物が店頭の大半を占め、地元食材が食卓に上る機会が減少。生産地の危機に。
- 一人ひとりが正しい食の知識を持ち、地元農産物の使用に努めることで、安心安全な食、生産者の所得向上や産地振興、環境負荷低減へ。
⇒SDGsに繋がる、持続可能な農業の実現を目指す

第二章 奈良市の食育・地産地消に関する現状と課題

R2年度に行った、食育および地産地消に関する市民・飲食店向けアンケートの結果から、本市における現状と課題を抽出。

	現状・課題
食育	<ul style="list-style-type: none">✓ 食育に対する意識が、高齢層に比べて若年・中年層は低い。<u>食文化への関心も低い</u> ⇒学校での食育や保護者向けの啓発、農村文化継承への取り組みが必要✓ 過去の調査結果に比べ、<u>食品ロスに対する意識が最も低い</u> ⇒食品廃棄量削減に向け、情報発信や食への感謝が必要
地産地消	<ul style="list-style-type: none">✓ 農家数や農地、農業所得の減少により、<u>生産地衰退の危機</u> ⇒担い手確保、農地の効率的利用が必要✓ 国産農産物の購入意識は高まっているものの、<u>市産・県産農産物の購入に繋がっていない</u> ⇒PR活動等による認知度向上が必要✓ 単価の高い野菜や畜産の生産量が少なく、<u>市産農産物は平均して低価格で販売</u> ⇒ブランド化を通じた単価の上昇が必要✓ <u>市産・県産農産物の購入経路が限られている</u> ⇒販路拡大により、手に取る機会の創出が必要

第三章 目標と展開

第二章で明らかになった課題を受け、市が取り組むべき五つの基本目標とそれに対応する具体的施策を記載。また、本計画における指標と目標値についてもこの章に記載。 ※指標と目標値は計画を参照

基本目標	(1) 健全な食生活の普及を推進 生活習慣病のリスクを減らし、健康寿命の延伸を目指す	◆取り組み例 <ul style="list-style-type: none">①・生活リズムを整えるための保護者向け講座 ・1日3食、バランスの良い食事の普及啓発 ・栄養、食生活についての情報提供②・適正体重維持、減塩等の推進に関する指導・相談 ・健康寿命延伸のための運動講座 ・高齢者の低栄養予防の普及啓発
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none">① 規則正しくバランスの良い食生活の推進 講座等により、幼年期から食生活の望ましいあり方を提示する② 生活習慣病及び低栄養予防の推進 専門家の指導により、乱れた食生活や運動不足を解消する	
基本目標	(2) 若い世代に向けた食育の推進 現在と未来の健康や食文化継承のため、食育を推進する	◆取り組み例 <ul style="list-style-type: none">①・給食を通じた食育の推進 ・生産者と触れ合う場の提供 ・栽培や収穫などの農業体験②・孤食に対する地域活動の支援 ・食に関する農村地域の暮らし体験 ・食育関連事業者の活動を支援
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none">① 学校等における食育の実践 教育施設で地元農産物を活用し、子どもに食の大切さを教える② 地域全体での食育の推進 企業やボランティア等の活動を支援し、地域の食育を推進する	
基本目標	(3) 環境と繋がる食意識の醸成 食品廃棄量削減の推進と、地産地消で食への感謝の心を育む	◆取り組み例 <ul style="list-style-type: none">①・食べ残し削減に向けた啓発 ・手つかずの食品の廃棄削減に向けた啓発 ・環境意識を育む場の提供②・食の生産過程を学ぶ場の提供 ・直売所や生産者による出張販売 ・栽培や収穫などの農業体験
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none">① 食品ロス削減 食を通じ環境への理解を深め、行動に移すための普及啓発を行う② 食に対する感謝の心の育成 生産～消費の循環と、食を支える人の努力への理解を推進する	
基本目標	(4) 農業経営の基盤強化 農業の安定的な経営環境のため、担い手確保や農地集積を行う	◆取り組み例 <ul style="list-style-type: none">①・就農促進のPRや農福連携などの情報提供 ・先輩農業者との人脈づくり ・住宅確保に関する支援②・農地の集積に関する周知・PR ・農地中間管理機構を介した利用権設定の推進 ・地域と農地中間管理機構との繋がりがづくり
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none">① 農業に従事する人材の確保 先輩農業者との交流等の支援により、新たな農業者を呼び込む② 農地の集積・集約 地域の農地集積を進めるため、農地中間管理機構の活用を促す	
基本目標	(5) 地元農産物の消費拡大 農産物の販路拡大やブランド化で、市民・来訪者の消費を促す	◆取り組み例 <ul style="list-style-type: none">①・流通に関する市場調査 ・生産者と販売者のマッチング ・地元農産物取扱店の拡大②・生産者と連携した地元農産物のPR ・6次産業化に関する情報発信 ・地元農産物の価値を普及させる体験型事業
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none">① 販路の拡大 生産者と販売者を結びつけ、市内小売店等への流通量を増やす② 地元農産物のブランド化 広報戦略等によるブランド化や、観光資源とすることで消費促進	
基本目標		
施策の方向性		

第四章 資料編

- ・アンケート概要

「食育・地産地消」に関する意識調査
「地産地消」に関する意識・購買動向調査「産地調べ」
「地産地消」に関する食材の仕入れ状況調査

- ・奈良市食育・地産地消推進会議委員名簿
- ・奈良市食育・地産地消推進会議規則